

# 経過報告資料

## 1. これまでの国際交流

銚子市では、アメリカ合衆国オレゴン州コースベイ市との姉妹都市協定を1983年に結び、以降、小・中・高校の姉妹校調印や中学校対抗銚子半島一周駅伝第50回記念大会にコースベイチームが参加するなど、多数の人的交流を含め様々な交流活動を行ってきましたが、2001年に起こったアメリカでの同時多発テロをきっかけにホームステイ受入事業が中断しています。以降、訪問等の相互交流はないものの、2011年東日本大震災の際にお見舞いをいただくなど、交流は続けております。

一方、フィリピンアルバイ州レガスピー市との姉妹都市協定は、1985年に提携が成立しましたが、直後のフィリピン国内の政情不安などにより、具体的な交流は進んでいません。

また、民間においても、ライオンズクラブやロータリークラブが国際交流活動を行っているほか、日中友好協会やポルトガル友好協会など、それぞれの国との交流を行う団体もあります。

最近では茶文化交流やジオパークを通じた交流、姉妹鉄道提携、女子ソフトボール代表チームのキャンプ誘致など、特に台湾との具体的な交流が生まれつつあります。

## 2. 国際交流協会の設立に向けて

銚子市内には、2,000人を超える多くの外国人が暮らしており、外国人に対応した窓口の開設や日本語教室の開催などが求められています。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、社会的にも国際化の機運が高まる中で、銚子市民の国際化についての理解と関心を高める必要性があると考えました。

このような状況の中、平成28年度には本市における「国際交流協会」の立ち上げを目指し、市民有志と市による協議を進め、設立に向けた調整を行ってきました。平成29年度に入り、国際交流協会の設立準備会を開催し、関係団体への経過報告と協力依頼をし、継続的に協議を行ってきました。

そして、官民協働での安定的な協会運営を目指し、本日の設立総会を迎えました。